

1, 老人福祉事業 記念品交付

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：各地区で開催される敬老会において記念品を配付し、地域住民と共に長寿をお祝いしながら地域ふれあい交流の推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日 令和元年9月15日～21日

対象者 80歳・85歳・90歳・95歳・100歳以上

事業実績：平成29年度 73名

平成30年度 80名

令和元年度 103名



地区	人数	地区	人数	地区	人数	地区	人数
竹富	11	大富	5	鳩間	2	祖納	12
黒島	3	上原	3	波照間	14	南風見苑	5
小浜	19	船浮	1	新城	1	細崎	1
豊原	4	浦内	1	大原	3	美原	5
住吉	3	白浜	4	干立	4	船浦	2

- まんだら一茶（竹富島）
- 黒糖（小浜島）
- もちきび（波照間島）
- アーサつくだ煮 or しぐれ煮（黒島）
- 黒紫米（西表島）



- ・竹富町特産品詰め合わせセット（1,800円相当）を対家庭に配布することになり、今年も大変好評であった。保育所の協力のもと、子ども達のメッセージ・ぬりえでラッピングが華やかにお祝いすることが出来ました。
- ・受渡印を本人ではなく、日付にしたことで配布協力者（区長）負担軽減につながりました。

2, 老人福祉事業 おじいちゃんおばあちゃんいつもありがとう



【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】

目的：高齢者とふれあいをもつことで、お年寄りを敬う気持ちを育み、親しみをもつ。
地域の高齢者の方にも地域の幼稚園児を知ってもらい、幼稚園教育への理解へつなげる。

内容：実施場所 離島振興総合センター 大ホール

実施日 令和元年11月8日

バンド Pearl Village mountain

対象者 おおはら幼稚園児、職員、園長先生、東部地区サロン、
東部地区地域役員、東部地区民生委員児童委員、
古見・美原子ども会、
東部地区平成30年度赤い羽根共同募金協力法人 等

事業実績：令和元年度 総勢70名余りが参加



- ・東部地区サロンが一緒になり交流会を行ったことがなく、生演奏があると嬉しいなど様々な意見もあり、普段ボランティアで頑張っている方々も一緒に楽しめました。
- ・各ボランティアによる送迎対応だけでなく、送迎サービスを利用しての参加。他サロンとの交流が一度にできました。また、住民参加型のイベントをもつことで、年齢に関係なく同じ空間で楽しむ事が出来ました。

今後も地域のニーズに交流企画を地域住民と一緒に企画したいと思います。

[参加者の声]より

- ・このような企画は、今後もずっと続けて下さい。映画鑑賞会のようなものもあれば良いかなと思いました。
- ・普段あまり交流しない子どもやお年寄りの方々と触れ合えてよかったです。
- ・懐かしい音楽、演奏ありがとうございます。生バンドを聴きする事があまりないのでとても良かったと思う。
- ・ばあちゃん達、子ども達の笑顔がとても良かった。衣装もヘアスタイルも自分の若かった頃を懐かしく思い出し、生バンドの素晴らしさ。どの曲も数えるほど知っていたのでとにかく楽しかった。
- ・平日でしたが、小学生は代休だった為、子ども会で参加出来て良かったです。楽しめました。
- ・幼稚園児との交流会でのおばあちゃん、地域の方の笑顔が印象的でした。バンド演奏は、はじめはかたまっていたのに、次第に体を動かしてリズムをとっていて、笑っていたので安心しました。動き過ぎて翌日、体があちこち痛かったという話も聞きました(笑)。
- ・本格的なバンド演奏、歌で感激しました。あっという間の時間でしたのでもっともっと聞きたいと思いました。素敵な時間をありがとうございました。
- ・音楽を聴く機会はあまりないので、こういうライブイベントはとても楽しかったです。お年寄りの皆さんが本当にたのしそうに手を動かして踊っていました。
- ・オールディーズバンドが久しぶりで楽しかった。リズムにのって、お年寄りも踊ったし、幼稚園児達にもあまり機械のない生バンドで良かったのでは。
- ・今回は地域の方も含めた大きな取り組みでしたが、楽しく過ごすことが出来ました。子ども達は少し緊張していました(笑)。オールディーズあまり聞くことのない音楽でしたが、生バンドで迫力があって楽しむことが出来ました。ありがとうございました。
- ・楽しいイベントでした。子ども達とお年寄りの方々と交流がとても楽しいものになり、良かったです。いつも泣いている子ども達が笑顔で過ごせているのも良かったです。オールディーズライブ最高でした。
- ・あしながおばさんの会、園児たち、地域の方々と交流する機会があまりないのでとても良かった。すごく楽しかったです。

園児へのプレゼント [クレヨン]

子ども会へのプレゼント [のり、鉛筆、消しゴム]

他、参加者へのプレゼント [ティッシュペーパー 1箱]



3, 児童福祉事業 新入学児童用品交付 【財源：赤い羽根共同募金】



目的：竹富町の次世代を担う子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉の向上を図りながら新入生のお祝いをする。

内容：実施場所 竹富町立小中学校

実施日 平成31年4月

対象者 竹富町内各小中学校の新入児童生徒



小学1年生へのプレゼント [サインペン・赤青色鉛筆・消しゴム・液体のり] 50名
中学一年生へのプレゼント [消しゴム・3色ペン・蛍光マーカー] 40名



・地域の民生委員児童委員、相談員のあいさつ回りをかねて配布することで、学校と地域の民生委員児童員の皆さんの距離もより近くなりました。

4、児童福祉事業 鯉のぼり掲揚式

【財源：赤い羽根共同募金】



目的：児童福祉週間行事の一環として、保育所・地域住民等と協働してふれあい交流イベントを開催する。

内容：実施場所 西表保育所・上原保育所・大富保育所※他4ヵ所竹富町保育所

実施日 平成31年4月16日（火）～25日（木）

対象者 園児、保育士、区長・公民館、地域住民、通信員

竹富町民生委員児童委員、サロン団体、

保育園児外（2歳児未満）、保護者、竹富町社会福祉協議会

事業実績

平成30年度 黒島保育所 園児8名、地域住民

小浜保育所 園児26名、地域住民 総勢105名

他5ヵ所の保育所にて実施 全体372名

令和元年度 西表保育所・上原保育所 園児19名、地域住民

総勢40名

大富保育所 園児20名、地域住民 総勢63名

他4ヶ所の保育所にて実施 全体266名



保育園児へのプレゼント

[ぬりえ・風船・玩具]

未就学園児へのプレゼント

[ベビー石鹸、口拭きシート]

サロン参加団体へのプレゼント

[ティッシュ2袋]

・石垣島より大道芸人を招き3ヶ所の園児へレクリエーションを実施。地域住民の皆さんは、子ども達の成長を楽しみながら、ふれあい交流を通してまた自分自身の元気につながると話されていました。昨年と同様、保育所の雰囲気を感じながら保護者、地域の方々が温かく見守っている姿も感じることができ、大人も一緒に楽しみながら地域で子どもの健やかな成長を願う素敵なイベントとなりました。



5, 児童福祉事業 絵本を通して豊かな未来を 【財源：赤い羽根共同募金・寄付金・会費等】



目的：絵本を活用し、思いやりの気持ちを育てながら生活の一部としてとらえ、またコミュニケーションの一つとして親しみや絵本の素晴らしさを理解する。子の親、家族だけではなく、子ども達に関わる関係者が絵本を通してより関係性が深まり、居場所づくりとなるきっかけの場を設ける。

内容：実施場所 石垣市立図書館 視聴覚室

実施日 令和元年5月19日

講師 一般社団法人 絵本メタリング協会

代表理事 仲宗根 敦子 氏

絵本EQ講師 當間 くみこ 氏

対象者 保育士、幼稚園教諭、サロンボランティア、

竹富町ファミサポ サポーター、

竹富町役場・竹富町社会福祉協議会職員 その他 合計 36名

★3～5歳児へのおすすめの本

- ・14ひきのあさごはん ・バムとケロのおかいもの ・バムとケロのそらのたび
- ・ぼくのかえりみち ・わたしとなかよし ・えらいえらい！
- ・ぜったいに押しちゃダメ？

★大人へのおすすめ本

- ・たいせつなきみ ・ええところ ・おこだてませんように ・ふくびき

各保育所・幼稚園の先生方へ上記から3冊選んで頂き、配布しました。



- ・保育現場の研修が少ないこと、横のつながりが少ないことから実施しました。
- ・参加者からは、絵本が子どもに与える影響力の大きさに改めてびっくりされている方、子どもへの絵本読み聞かせで悩んでいた時期だったので、とてもためになりました等、現場の保育関係者から自分の考え方と違うやり方が学べてよかったという声が多くあがっていました。

[参加者の声]より

- ・本の選び方、読み聞かせテンポを教えていただいて良かったです。
- ・絵本の読み聞かせの勉強だと思ってやってきましたがIQやEQを高めるという大切な事を知ってびっくりしました。明日から近所の子ども達をいっぱい褒めてあげます。悲しい話も良いと知れて良かった。
- ・いい機会をありがとうございます。とてもわかりやすい講話でした。
- ・自身は家庭でも仕事等でも絵本を読み聞かせる事は無いのですが、講話の内容は全て、心に残るものでした。
- ・絵本が子どもに与える影響力が大きいという事が改めてわかったので、読み聞かせの時間をもっと大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・私も子育て中たくさん本を読み聞かせて、自分自身でも絵本の良さを実感していましたが、なかなか園の保護者やサポートする子の保護者には伝えられず…「そんな時間なくて。」と、言われるので、早口でも読むことができ、少しの間でも活用して読んであげる良さがあることをさっそく伝えたいです。
- ・自分の考え方と違う新しいやり方が学べて良かったです。さっそく今夜試してみます。
- ・絵本に対する認識が変わった。自分の思考のパターンを変えるために絵本を多読することに挑戦したいと思った。
- ・私自身保育の時間に追われてしまい、今日は読み聞かせできないなあ〜と思う事が多かったのですが、まずは自分自身に余裕をもって、意識を変えていきたいなと感じた。
- ・勉強になりました。何が良いのか、なぜ良いのかが理解できました。ありがとうございました。
- ・絵本の魅力に改めて気づかされ、新しく絵本の読み方の提案を知ることができ良かった。絵本を通したつながりは、ひと対ひとでありがたら、少し間接的な要素もあり、コミュニケーションツールの一つとしてもすごいなと感じました。
- ・素晴らしい読み聞かせの講話、感動しました。大変勉強になりました。自分の子育てに出来なかったこと、孫のためにこれから読み聞かせを活かしていきたい気持ちにさせられました。
- ・日々、読んでいる絵本について改めて学んだこともあり、勉強になりました。
- ・子どもへの絵本読み聞かせで悩んでいた時期だったので、とてもためになりました。もっともっと色々な歳の話も聞いてみたいです。
- ・自分の子育ては終わっているので、保護者に伝えていけたらいいです。
- ・読み方が分かってよかったです。明日から実践したいと思います。
- ・参考になることが沢山あった。
- ・ステキな時間をありがとうございます。読み聞かせを聞くことができる事がステキ。読んであげる心地よさを日々感じることに感謝です。

6, 児童福祉事業 ボランティア推進指定校

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：ボランティア活動や福祉教室等を通して、「住んでいる地域で自分にできること」へ“気づき”を促し、安心して豊かに暮らせる地域づくり推進に児童生徒が積極的に携わっていただけるよう支援する。

ボランティア推進指定校

活動助成金を交付し、学校単位で様々なボランティア活動を計画し、実践した。

実施場所 上原小学校・大原中学校

実施日時 平成31年4月1日～令和2年3月31日

対象者 児童生徒

事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
上原小学校 (2年目)	(通年) ・毎週月・水・金の8:10～8:25(15分間) [1～2年生] 1年生：中庭玄関付近の広場の清掃 花壇やプランターの水かけ 2年生：校門周辺の清掃 [3～6年生] 月曜日…校舎や体育館周り 3・4年生：体育館周りと校舎裏、専科教室の前ろうかの清掃 5・6年生：校門～児童玄関、池の周りの清掃 水曜日・金曜日…校舎外の清掃 3・4年生：信号機～上原港行「上原小前バス停」までの清掃 5・6年生：信号機～橋の手前までの清掃	1年生 13名 2年生 18名 3年生 11名 4年生 22名 5年生 11名 6年生 15名 職員 12名
	(5月) ビーチクリーン作戦 中野海岸 (7月) オリジナル共同募金箱を作ろう。 4年生以上の児童で各クラス2回。 (11月) 赤い羽根共同募金活動 (12月) 一人1プランター運動 花を植えよう (1月) ヤマネコ保護運動 道路への看板設置	
	合 計	102名

活動推進のねらい

- (1) 自分たちの学校を大切にしながら、常に校舎や地域をきれいにし美しい学校、地域を保とうとする心を育てる。
- (2) 郷土や地域、学校の自然に興味をもち、郷土の自然を守る活動や、花と緑のある学校作りを保とうとする意識を育てる。

今年度の効果

- (1) 朝のボランティア活動では、児童主体で地域の清掃活動を行うことが出来た。校外に出て校区の清掃を行うことで「自分たちの地域をきれいにしたい」という気持ちを高めることができた。また、朝の時間に清掃を行うことで、地域の方とあいさつを通してコミュニケーションをとることもできた。
- (2) ビーチクリーン作戦では、海岸に漂着するゴミについて知る良い機会となった。漂着ゴミの環境破壊の現状や、ポイ捨ての害、分別の大切さなど自分達の生活と結びついて考えることができた。
- (3) 赤い羽根共同募金では、児童会活動の中で募金活動を行うことができた。高学年を中心に捨てられるペットボトルを再利用して募金箱を製作することができた。児童会役員を中心に家庭での募金活動を呼びかけたり、贈呈式を通してボランティアの意義について確認することで、さらにボランティアへの意欲が高まった。

2年間の実施による効果

- (1) 2年間の継続した活動により、児童の活動意欲を高めることが出来た。
- (2) 昨年度より地域の方々とあいさつを交わしながら清掃活動を行ってきたことにより、地域に根ざした活動になってきた。

反省点

- (1) 朝のボランティア活動が初年度だったため、職員が効果的な児童への指示ができていない場面があった。
- (2) 児童数に対して清掃道具の数が足りなくて効果的な清掃ができない時があった。

今後の課題

- (1) 児童数に対して清掃道具の数が足りなくて効果的な清掃が出来ない時があった。清掃道具を十分に補充する。
- (2) 児童主体での活動を行うため、計画や準備などの時間の確保が必要である。
- (3) 新職員も含め、4月にボランティア活動の共通確認をし、全校態勢、全職員態勢で行い、効果的な児童の活動にしていく。
- (4) 児童会を主体にボランティア活動を行うための計画を年度当初に立て、見通しを持って活動に取り組む必要がある。

事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
-----	------------	------

大原中学校 (1年目)	(通年) ボランティア清掃 毎朝8:00~8:10	全校生徒 30名
	(5月) 地域のボランティア清掃 ※大富地区の清掃の予定だったが、雨天のため、郊外の清掃は出来なかった。急遽、校内のあまり清掃が行き届かない場所を清掃。	全校生徒 30名
	(7月) ペットボトル共同募金箱の作成 ※赤い羽根共同募金の取り組みを始めるにあたり、社協から募金活動の意義などを学び、募金箱を丁寧に仕上げる事が出来て満足そうだった。	全校生徒 30名
	(9月) 敬老会に参加 ※東部地区合同敬老会に参加し、「えんどうの花」「芭蕉布」の2曲を演奏、披露した。	全校生徒 30名
	(10月) 赤い羽根共同募金出発式 地域のボランティア清掃：大富地区	全校生徒 30名
	(12月) 赤い羽根共同募金 街頭募金活動 ※大原港で2日間、時間帯に合わせて3つのグループにわかれて行った。	全校生徒 30名
	(1月) あしながおばさんの会との交流会 赤い羽根共同募金 贈呈式	1・2年生 21名 全校生徒 30名
	(2月) 地域のボランティア清掃：大原港 ※4つの班に分かれて清掃。	全校生徒 30名
		合 計

活動推進のねらい

- (1) ボランティア活動を通して、中学生の自発性や社会性、町民性が育まれていくことをめざす。

今年度の効果

- (1) 4月当初はボランティア推進校という肩書に気負いが見られたが、先輩たちと共にずっとやってきた地域のボランティア清掃など、何気なくやってきた今までの活動自体に評価を見出し、継続していきたいという意欲をかんじるようになった。
- (2) 朝のボランティア清掃で、生徒自身の自主性が顕著に表れるようになった。
- (3) 地域の清掃や地域の方々との交流を通して、いつも応援してくれる地域に対する感謝の気持ちや地域に貢献したい気持ちが高まった。
- (4) 「あしながおばさんの会」との交流から、年齢に差があっても、一緒に楽しめることやその交流自体がボランティア活動の一環であることや、会の運営のお手伝いや、自分の得意なものを披露し楽しんでもらうなど、募金や清掃以外の様々なボランティア活動があることに気づくことができた。

反省点

- (1) 学校行事や地域の活動で忙しい中学生の活動なので、計画的にすすめなければ、負担を強

- いてしまう。
- (2) 課題意識をもって、各活動に取り組むことによって、さらにボランティア勝尾づの意義や地域への理解を深めることができたと思う。

今後の課題

- (1) 1年後の見通しを立てた計画。
- (2) PDCA サイクルを意識し、各活動で無駄のない計画・実践をめざす。
- (3) 各活動において、ボランティア活動に対する課題意識をもつことで、より一層ボランティア活動の意義や、地域への理解を深め、さらに地域へ貢献できる生徒を育成することをめざす。

7, 視覚障がい者福祉事業

「私を感じるもの、見えるもの」～当事者からのメッセージ～

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：障がいの有無に関わらず地域住民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことができるようにする。体験をとおして楽しく学び、視覚障がいへの理解へつなげる。

内容：実施場所 小浜島 ふれあいセンター

実施日 令和元年6月25日

対象者 小浜婦人会、小浜島ヘルスマイト、地域住民

事業実績：

平成28年度 実施回数 1回 当事者 2名

※竹富島、石垣島にて歩行訓練、相談

平成29年度 実施回数 1回 当事者 1名 ※石垣島にて歩行訓練、相談

平成30年度 実施回数 1回 当事者含む参加者 22名

令和元年度 実施回数 1回 当事者含む参加者 20名



- ・前回に引き続き、2番目に視覚障がい者手帳を所持している地域にて実施。人によって危険個所の違いや、物の定位置が大事など知らなかった部分がわかり、これからの生活やかかわり方に生かしていきたいという参加者の姿勢がありました。
- ・地域のヘルスマイトの協力もあり、島の食材を使ったアイマスク食事体験も出来ました。ヘルスマイト活動の場や広報も出来、お互いにモチベーションが高められたと感じました。
- ・当事者と一緒に前回と同様に次年度の取り組み内容を確認、相談を行いました。町出身者として、他島にて地域の子も達、地域住民への講話や体験教室への協力を引き続き行っていきたいとして当事者の生きがいにも繋がっています。

[参加者の声]より

- ・視覚障害者への接し方や視覚障害者の方の考え方見え方など色々と勉強になりました。
- ・仕事が接客業なのでこれからの仕事に活かせていけたらと思います。
- ・視覚障害者への知識が少しはついたと思います。
- ・視覚障害者の皆さんをこれまでは見えないだけだと思っていたのが見えない方が色々あってその見えない方によって工夫をして生活しているとのことで大変なのが良くわかりました。
- ・食事もおいしく話も楽しくお土産もいっぱい貴重な時間ありがとうございました。
- ・日常の細かなこと声かけの仕方など知ることができて良かったです。
- ・視覚障害者の苦勞が良く分かったいい経験になりました。
- ・とても食べる事が難しかった。
- ・手づかみで食べても口元でこぼしたり大変だった。
- ・こんな感じなんだろうなあとは思うけど実際体験した事がなかったので貴重な時間でした。見えないと何処に何がどのくらい入ってるかもわからないので戸惑いが沢山ありました。
- ・何も見えず何を食べているのか解らずすごい経験でした。
- ・不安の中箸を口まで大変でした。
- ・アイマスクをしたとたん真っ暗になりすごく怖かった。
- ・視覚障害があると料理場所も分からず食べるのが大変なことが分かって良かった。



8. 結のまちづくり活動助成事業 【財源：赤い羽根共同募金】



- 目的：共同募金の一部を財源として「住み慣れた島で安心して暮らせるまちづくり」の推進に取り組む団体・グループ等に対し公募によって申請を受け、助成する。
- 内容：実施場所 竹富全域
実施日 平成31年4月～令和2年3月
対象事業 (1) 地域福祉活動の推進・福祉啓発の推進 (2) 健康・生きがいづくりの推進 (3) ボランティア活動の活性化 (4) 児童の健全育成の推進 (5) 当該申請年度中に団体を設立するための準備経費 (6) その他、地域福祉の推進に効果が期待できる活動

事業実績

1. 上原老人クラブ (助成金 50,000 円)

年間を通して、わいわいホールの花壇の花の育成・水やり・除草。県道中野海岸線の植栽柵の花の育成及び県道両側の除草・枝打ち等美化作業。いきいき百歳体操を毎週水曜日実施。「上原老人クラブの会員増加と発展」をテーマに方策を現会員で話し合った結果、「活動項目の多様化、活動内容の広報・啓発」、を重点的に行う事として、グランドゴルフ月2回導入。5集落の「子ども会」と連携のもと月1回、子ども会との交流の場とし保護者から好評でした。花壇美化活動の広報看板を設置。上原小新1年生へ、「交通安全マスコット」進呈。

2. FC PAPAYA Jr. (助成金 30,000 円)

石垣島での試合参加、イベント参加、交流会、合同トレーニングへの参加を年20回程度行い、子ども達のサッカーの技術の向上、精神的向上を計った。西表島での年1回のサッカーキャンプを行い、島外チームを招待してチーム間交流、親睦を深めた。他チームとの交流の機会が増え、新しい仲間を作ることができた。石垣島での試合や、合同トレーニングにより、技術の向上はもちろんサッカーへの興味や関心をより深めることが出来ました。

3. 細崎公民館 (助成金 60,000 円)

朝、海岸清掃から始まり午後から細崎の生みで地域の子を対象に砂浜宝探し、三人綱引き SAP 相撲等を行い、夕方から民宿パナパナ前広場にてステージと盛り沢山な一日となった。地域住民の老若男女がそれぞれのイベントを楽しみステージでは、普段接することのない年配の方の飛び入り等もあり大いに交流が出来た。また来年への嘉愛も発見できたので、来年も継続して行うことで細崎という地域を最高の場所にしていきたい。

4. 豊原子ども会（助成金 30,000 円）

子ども達と地域の方々との交流会として、地域の方々を招いて、豊原ミニミニ運動会を開催しました。参加者は、リレーや障害物競争、水風船を使った玉入れやホールインワンゲームなどを楽しみました。運動会後、豊原公民館長より昔遊びを教えてください、こどもたちははじめて行う昔遊びをととても楽しんでいました。

5. 西の子ミニバスケットスポーツ少年団（助成金 100,000 円）

当初の計画では、外部の指導者を沖縄本島から招き、西表島内他校も誘い練習会を開催する予定であった。しかし、ミニバスケットボールを取りまく島内及び当団体の状況が助成事業申請の時点と大きく変わり、西の子チームとしての練習より西表島合同チームの練習が多くなり、かつ合同チームの練習指導者が八重山ミニバスケットボールの強化練習コーチであり、外部指導者の指導を仰ぐことがむしろ子ども達に混乱を招くことになるため、当初計画を断念。合同チームに参加しない子ども達を含めた指導を受けてくれている西の子チームの指導者の練習を、父母会が受け継げるよう、この指導者の練習マニュアルを作成し、指導者不在となる令和2年以降に父母会が子ども達を支える体制をつくることとした。マニュアル作成後に、指導者と父母会で集まり、マニュアルの細かいところを子どもたちと一緒に練習をして受け継ぐ予定であったが、コロナウイルスの影響によりバスケ練習が不可能となり、指導者から直接、細部についての引継ぎはできなくなってしまった。この指導者は3月末で島を離れた。苦しい状況が続くが、継続して子ども達の活動の場を整えられるよう、父母会は引き続き努力していきたい。

6. 古見・美原子ども会（助成金 100,000 円）

長年、地域の方々や親、そして子ども達の願いを受け止めてきたこいのぼりの老朽化に伴い、新調することで、こいのぼり集会を地域との交流の場にすることが出来ました。一年間の子ども会活動を通して、自分達の手で新聞を作成し、活動の発信及びいつも協力してくださる地域の方々への感謝の気持ちを新聞に載せることによって、地域との絆がより深まることが出来ました。

7. 船浮婦人会（助成金 50,000 円）

新しい卓球台を購入し、毎週木曜日には学校の体育館を使用してバドミントン、卓球、ボール遊びや軽い運動が来ています。たまに子ども達や若者も参加して、一緒に体力の向上を続けている。3月7日にゆんたく会を開催。当日、参加できない人もいたが、土曜日だったので子ども達や若者も参加して、楽しく交流できた。※卓球台は現在、公民館に置いている。

9, 福祉育成援助活動事業 ボランティア育成推進 【財源：赤い羽根共同募金配分金】



目的：町内ボランティアの人材育成、資質向上を行い、地域ネットワークの推進、
地域福祉力の向上を図った。

- 内容：・地域リーダー、ボランティアの育成
・県社協、石垣市で開催される研修会等への派遣
・ボランティア登録推進 ・ボランティア保険受付

事業実績：

① ボランティア登録推進

平成 28 年度 10 団体 56 名、平成 29 年度 11 団体 63 名、
平成 30 年度 10 団体 52 名、令和元年度 10 団体 42 名

② 福祉教室の開催

独居世帯や気になる家庭等を対象に子ども達が登下校中にためらうことなく積極的に「声かけ」が出来ることを目標に、その第一歩となるようフィールドワークを行った。

実施場所 西表東部地区（大原小学校）

実施日時 令和元年 7 月 11 日

参加人数 4 年生 11 名、教職員 3 名、
地域高齢者協力者 3 名（豊原、大原、大富地区）、地域協力者 3 名、
竹社協 2 名



↑ オリエンテーション & 各班感想発表



↑ 大富地区



↑ 豊原地区



↑ 大原地区

- ・ふれあいインタビューを通して、今回も子ども達だけではなく、地域の方々にとっても積極的に「声かけ」が出来る関係性のきっかけになったと思います。
また、自分の育った島をこれまで以上に大切にしていきたい気持ちも芽生えたようで嬉しく思いました。
- ・質問の答えからどんどん会話を広げていく様子もあり、充実した時間となりました。

[子ども達の声（自分が出来る事）]より

- ・ぼくは戦争をしないでみんなが平和に暮らせるようにしたいです。
- ・ケンカをしないで、みんな仲良くしたいです、あといつも先に「あいさつ」をしたいです。
- ・私はこれから困っているおじいちゃん、おばあちゃんを助けてあげようと思います。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんにいつもあいさつしたいです。
- ・迷惑をかけないでいつも元気にあいさつしたいです。
- ・今の私にできることは小さなけんかでも素直に「ごめんね」と自分から進んで言えるようにしたいです。
- ・私は、山盛力さんのお願い「いずれ戻って来て西表島を守ってほしい」と言う言葉を聞いて、大きくなったら西表島に帰ってきて守っていきたいです。
- ・ほとんどのお年寄り、足腰が悪いので助け合いを忘れないようにしたいです。
- ・ケンカをしないで平和な世界にすることと、毎日進んであいさつをすること。
- ・今度会うことがあったら、きちんとあいさつしてまたインタビューしたいです。
- ・もし、大変そうなおじいちゃん、おばあちゃんを見つけたら助けてあげたいです。



③ ボランティア学習・福祉教育セミナー2019

本セミナーは、学校と地域が協力して進める福祉教育の実践事例を通して、これからの福祉教育に必要な視点や展開について考え、沖縄県における福祉教育が広がり、子どもたちの学び合いが深まることを目的に開催。

日 時：令和元年 8 月 23 日（金）

場 所：沖縄県総合福祉センター東棟 5 階 501 号室

内 容：「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育」他
講師・新崎国広（大阪教育大学教育学部教育協働学科教育心理科学講座教授）

参加者：竹富町内小中学校教諭（黒島小中・上原小・大原中）3 名、竹社協 1 名

- ・子どもを取り巻く環境が大きく変化している中で、「教師だけが教育する時代」は難しくなっている。だからこそ、学校と家庭・地域が連携を図り、協働することが必要であることを改めて感じる事が出来、福祉教育にあたることの必要性を実感することが出来た。と、参加者から声があがっていました。

④ 令和元年度ボランティア情報交換会

地域リーダーやボランティアの資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図ることを目的に開催。

日 時：令和2年3月3日（火）

場 所：ろうきん八重山支店 2階会議室

- 内 容：1. 前年度情報交換会及び研修会のふりかえり
2. アイスブレイク、レクリエーション 3. ゆんたくタイム
4. ワークショップ

「自分自身が利用者の立場で参加してみたいくなるサロンってどんな内容・雰囲気ですか？」

5. グループ発表

参加者：竹富町ボランティア 15名、竹社協 2名

参加者へのプレゼント [手洗い石鹸]



↑アイスブレイク



↑レクリエーション



↑ワークショップ



↑グループ発表

- ・参加者自身の気づきになれるよに、レクレーション内容の意味や、利用者への声掛け方法等について取り組みました。
- ・前回の参加者の意見をもとにレクリエーションのプログラムを作成。全9種類のレクを紹介、体験しました。参加者皆さんがたくさん笑って話せて楽しく過ごせる居場所という声があがっていました。美味しいものが食べたい、身体を動かしたいという声もあり、一人で過ごすのではなく、仲間と一緒に好きなことを行いたいという気持ちが伝わってきました。
- ・地域によって集まる人、支える人により居場所は多様。サロン活動を行っていく中で無意識に行っている支え合い、助け合いに目を向けるきっかけとなるよう、引き続き情報交換会を開催していきたいと思います。

[参加者の声]より

- ・新しい情報、他の情報が聞ける機会はとってもありがたいです。当り前のような事でも改めて言われると納得（声掛けの時名前をよぶ など）
- ・新しいゲームや方法を知ることが出来、楽しかった。
- ・今後のサロン運営に役立つゲーム等あり、大変良かった。
- ・どの様な事を学べるのかな？と楽しみにしていました。他のサロンでは弁当作りも頑張っている事を知り感心しました。ちょっとした事でいろいろなゲームや楽しみ方があるのだなーと楽しくなりました。参考にしたいです。
- ・新しくゲームを教わり楽しかった。ゲームの商品もありうれしい、ありがとうございました。また来年もよろしくお願いします。
- ・とても楽しく過ごせました。ゲームや手遊び等、持ち帰り、自分たちのサロンで楽しみたいと思います。
- ・素敵な時間有り難うございました。リフレッシュできました。前回の要望も取り入れてくれてありがとうございます。いろいろ参考になりました。今後利用したいです。お土産もありがとう。
- ・昨年も参加しましたが、毎回楽しいと思います。元気を貰いました。地域を生かしていきたい。
- ・楽しかった。今後ともいろいろなアイデアをお願いします。
- ・今回も楽しく過ごすことが出来ました。時間が少し短いと思いました。ゲームをもっと出来れば良かったかなー。
- ・ゲームがとても参考になりました。どういうゲームが脳によいとか、ためになります。自分が利用者さんの気持ちになれることが普段ないので、このような機会は大切だと思いました。
- ・指をを使っての遊びが楽しかったです。楽しいことをして皆の笑顔が見えるような遊び。
- ・講義を受けるのも良いけど、実技を通して帰ってからサロン活動に生かしたいです
- ・時間がなかったことが残念に思います。
- ・ゲームが楽しかったです。
- ・短時間なのに、盛りだくさんでした。



10. 福祉育成援助活動事業 結のまちづくり推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：地域内で発生している福祉課題を地域住民全体の問題としてとらえ、住民全体の問題としてとらえ、住民相互の助け合い・ふれあい活動を基本に解決できるよう、地域支え合い体制の基盤づくりを推進する。

内容：実施場所 竹富島・小浜島・西表島 結のまちづくり助成金交付地区 他

実施日 令和元年5月～令和2年3月

- ・事業説明会 ・座談会、ゆんたく会の開催
- ・結のまちづくり活動助成団体への支援

事業実績：

令和元年5月23日（木）西表島 西部地区 干立公民館

令和元年5月24日（金）小浜島 細崎公民館

令和元年5月29日（水）西表島 東部地区 離島復興総合センター

令和元年7月17日（水）竹富島 コミュニティーセンター

令和2年3月21日（土）西表島 古見・美原子ども会（助成団体）

- ・令和元年度実施団体と、その近隣地区の区長・公民館長へ呼びかけを行い、交付式及び事業説明会を実施することで、情報交換の場にもなりました。また、助成団体から日頃の活動について紹介をすることで、団体のPRにもつながり、助成金を活用しての取り組みについて周知することが出来る機会となりました。
- ・助成団体の取り組みや、事業説明会を受けることで、助成団体以外の地域の役員も刺激になっている様子が伺えました。
- ・助成団体への活動参加してみて、子ども達の成長に合わせて信頼関係のもとコミュニケーションが図れている様子から、子ども達も安心して物事に取り組むことで、将来の夢についてもしっかり考えているのだと感じました。



↑ 事業説明会及び、相談会・座談会





交付式

↑西の子バスケットボール
スポーツ少年団



↑上原老人クラブ



↑FC PAPAYA Jr.



↑船浮婦人会



↑豊原子ども会（育成会）



↑古見・美原子ども会
（育成会）



↑細崎公民館

古見・美原子ども会

結いのまちづくり助成事業「地域新聞づくり」→



1 1、共同募金運動の推進

【財源：県協募事務費（共募会計）・歳末助け合い募金】



目的：竹富町共同募金運営委員会で決まった事業計画に沿って、住民参加のもと募金運動に取り組む。

内容：実施場所 竹富町全域・石垣市

実施日時 令和元年 10月1日～12月31日

実施方法 戸別募金・法人募金・学校募金・職域募金・個人募金・その他

●10/2（水） 大原中学校体育館にて出発式（生徒・地域代表者）



●街頭募金活動 [黒島小中・大原中・大原小・古見小]

●募金箱の制作 [上原小・大原中・黒島小中・古見小]



↑共同募金ミニ講話



↑ペットボトルで募金箱作成



↑完成

●募金箱設置 [平成30年度 53ヶ所設置] [令和元年度 57ヶ所設置]

●沖縄県共同募金委員会受賞報告及び、伝達式



- 1) 一般篤志寄付者（金額に関わらず10年以上寄付を継続）…法人10団体
西表港運(株)、(株)南西工業、八重山観光フェリー(株)、(有)石波建設、(有)東洋工業、
(株)信用組、八重山興業(株)、(株)大知企画コンサルタント、(有)大祐土木設計、
(有)兼久建設
- 2) 優良地区（10年以上継続して個別募金活動）…公民館1団体
住吉公民館
- 3) 奉仕功労者・団体（10年間に亘って奉仕活動）…1個人、2団体
（個人）高田見諒
（団体）小浜小中学校 児童・生徒会、船浦中学校 生徒会

●共同募金運営委員会の開催（年2回）

●共同募金審査委員会の開催（年2回）

●啓発活動 [事業実施等に合わせて、事業についての周知活動]

●募金贈呈式の開催

11月25日 鳩間小中学校 16,245円

「鳩間島のお年寄りや地域の困っている人のために役だててもらえると嬉しいです。」



12月10日 波照間小中学校 14,721円

「自分の小遣いなどで集まった募金です。いろいろなところへ活用して行って下さい。」



11月25日 上原小学校 20,096円

「皆さんの協力のおかげでたくさんの募金が集まりました。この募金を大切に使ってください。」



1月20日 大原小学校 50,458円

「街頭募金も行い、多くの方々の優しさや思いやりも入っています。この募金で地域の困っている人たちへつかってください。」



11月25日 船浦中学校 4,264円

「来年も先輩たちがやっていたみたいにこのような機会があったらたくさん呼びかけて募金をして地域貢献したいと思います。」



1月20日 大原中学校 68,920円

「昨年度は、生徒会執行部だけの街頭募金活動でしたが、今年度は生徒全員で参加しました。赤い羽根共同募金は、私たちが福祉や寄付を学ぶのにとってもいい活動だと思いました。」



11月26日 古見小学校 26,823円

「僕たちだけではなく、街頭募金などで地域の方や観光客の多くの方々の協力で集めることができ、感謝しています。」



12月26日

竹富町商工会建設部会 500,000円



こんにちは!竹富町社会福祉協議会です。

社会福祉協議会の役割は、若い勇気と共同で社会を築き、高齢・障害・病気の予防、そして地域からの社会貢献で実現されています。

特別会員...年額500円
賛助会員...年額1,000円
特別賛助会員...年額10,000円

竹富町社会福祉協議会
〒797-0012 石川県美鶴町16番地6
TEL:090-82-3032 (FAX)090-82-3032 (FAX) 090-82-3032 (FAX)
E-mail:takeshakyou@blue.ocn.ne.jp

会員募集

【活動内容】

- 高齢者の生活支援
- 障害者の生活支援
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動
- 社会福祉協議会
- 高齢者福祉
- 障害者福祉
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動

【活動内容】

- 高齢者の生活支援
- 障害者の生活支援
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動
- 社会福祉協議会
- 高齢者福祉
- 障害者福祉
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動

【活動内容】

- 高齢者の生活支援
- 障害者の生活支援
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動
- 社会福祉協議会
- 高齢者福祉
- 障害者福祉
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動

【活動内容】

- 高齢者の生活支援
- 障害者の生活支援
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動
- 社会福祉協議会
- 高齢者福祉
- 障害者福祉
- 子育て支援
- 地域交流イベント
- ボランティア活動

たけとみちよう 社協だよりの No.30

編集・発行 / 社協 竹富町社会福祉協議会 / 事務局 〒907-0012 石川県美鶴町16番地6
TEL:090-82-3032 (FAX)090-82-3032 (FAX) 090-82-3032 (FAX)
E-mail:takeshakyou@blue.ocn.ne.jp

【あひ羽根共同基金】児童福祉事業
石川県立図書館にて絵本読み聞かせ講座を開催

絵本を通して親子の成長を育てながらコミュニケーションの一つとして読書の楽しさを体験すると、子ども達に課せられる読書を通しての学びも増える。竹富町の読書会、読書ボランティア、ファミリー学習会など、読書を通じた学びの場を多くの人に広げ、読書の楽しさを体験してほしい。

【活動内容】

- 平成30年度 新刊刊行記念報告
- 平成30年度 歳末たけみちよう報告
- 共同書写でつなぐ7ヶ所児童福祉協議会・児童委員報告
- 活動内容報告 ボランティア活動 2年度活動報告
- 令和元年度 社会福祉協議会
- 平成30年度 社会福祉協議会内/企画コーナー提出について
- 社会福祉協議会

竹富町赤い羽根共同基金 児童福祉事業の活動紹介

1【児童ふれあい交流イベント】
 児童委員(児童委員、児童委員)にて「児童ふれあい」のテーマをもち子ども達と交流、おしゃべりや歌の歌い合わせ、絵本の読み聞かせなどを行いました。児童委員と子ども達との交流が深まりました。

2【新入学児童用品交付】
 竹富町立小中学校の新入学児童や、地域の児童委員、児童委員より竹富町の次世代を担う子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉事業を地域で実践しました。(平成31年4月9日)

3【児童ふれあい交流イベント】
 児童委員連年行事の一環として、教育委員会、児童委員と連携しての交流イベントを開催しました。児童委員と子ども達の交流が深まりました。子ども達も、子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉事業を地域で実践しました。(平成31年4月16-17日)

4【絵本を通して豊かな未来を】
 絵本を通して、思いやりの気持ちや育ち、生きる力の大切さを伝える。また、コミュニケーションの一つとして親子の成長を地域で支え、児童福祉事業を地域で実践しました。子ども達も、子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉事業を地域で実践しました。(令和元年5月18日)

たけとみちよう 社協だよりの No.31

編集・発行 / 社協 竹富町社会福祉協議会 / 事務局 〒907-0012 石川県美鶴町16番地6
TEL:090-82-3032 (FAX)090-82-3032 (FAX) 090-82-3032 (FAX)
E-mail:takeshakyou@blue.ocn.ne.jp

【活動内容】

- 平成31年度 新刊刊行記念報告
- 平成31年度 歳末たけみちよう報告
- 共同書写でつなぐ7ヶ所児童福祉協議会・児童委員報告
- 活動内容報告 ボランティア活動 2年度活動報告
- 令和元年度 社会福祉協議会
- 平成30年度 社会福祉協議会内/企画コーナー提出について
- 社会福祉協議会

竹富町赤い羽根共同基金 老人福祉・障害福祉事業の活動紹介

1【おじいちゃん、おばあちゃんいつもありがとう 地域交流イベント】
 おおじいちゃん、おばあちゃんいつもありがとう。地域交流イベントを開催しました。おじいちゃん、おばあちゃんいつもありがとう。地域交流イベントを開催しました。

2【私が感じるもの、私が見ているもの】
 障がいのある仲間から学びたい。障がいのある仲間から学びたい。障がいのある仲間から学びたい。障がいのある仲間から学びたい。

3【長寿者記念品贈呈】
 竹富町内の80歳、85歳、90歳、95歳、100歳以上の方々へ地域の敬老会等に区長より記念品を配布。各保育所の協力のもと、ラッピングが華やかになり、地域交流が深まりました。(令和元年9月)

4【おじいちゃんおばあちゃんいつもありがとう】
 老人福祉協議会の一環として、高齢者への交流イベントを開催しました。おじいちゃん、おばあちゃんいつもありがとう。地域交流イベントを開催しました。

たけとみちよう 社協だよりの No.32

編集・発行 / 社協 竹富町社会福祉協議会 / 事務局 〒907-0012 石川県美鶴町16番地6
TEL:090-82-3032 (FAX)090-82-3032 (FAX) 090-82-3032 (FAX)
E-mail:takeshakyou@blue.ocn.ne.jp

【活動内容】

- 平成32年度 新刊刊行記念報告
- 平成32年度 歳末たけみちよう報告
- 共同書写でつなぐ7ヶ所児童福祉協議会・児童委員報告
- 活動内容報告 ボランティア活動 2年度活動報告
- 令和元年度 社会福祉協議会
- 平成30年度 社会福祉協議会内/企画コーナー提出について
- 社会福祉協議会

事業実績

【赤い羽根共同募金】

年度	目標額	実績	達成率
28年度	2,050,000円	2,193,291円	107%
29年度	2,079,000円	2,201,105円	105.9%
30年度	2,062,000円	2,836,409円	137.6%
令和元年度	2,060,000円	2,895,571円	140.6%

(内訳)

戸別募金：	492,850円	職域募金：	120,000円
学童募金：	239,898円	法人募金：	1,826,500円
個人募金：	32,615円	その他：	183,708円

【歳末助け合い運動】

年度	目標額	実績	達成率
28年度	850,000円	1,085,085円	127.7%
29年度	900,000円	1,297,527円	144.2%
30年度	900,000円	1,492,136円	165.8%
令和元年度	1,000,000円	1,274,419円	127.4%

(内訳)

戸別募金：	449,850円	職域募金：	134,000円
法人募金：	688,000円	個人募金：	5,000円

- ・ 区長会議をはじめ、各事業に合わせて共同募金の周知活動、新聞掲載等を行うことで日頃から地域住民へのお礼、協力願いを丁寧に行いました。
- ・ 事務局内での募金活動の準備、協力体制を強化。法人含めて地域住民のご理解、ご協力もあり、目標額を達成できました。
- ・ ボランティア指定校だけではなく、学童募金の贈呈式を行う学校の増加、また指定校外でも街頭募金をするなどの自主的取り組みもありました。

12、歳末たすけあい配分事業 義援金配分 【財源：歳末助け合い運動募金】



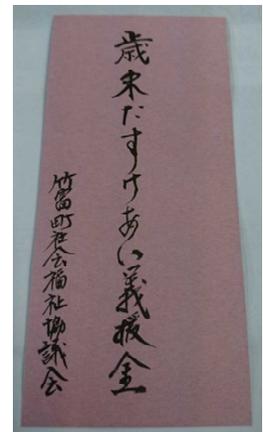
目的：新年を迎える時期に、生活困窮世帯（非課税世帯）で支援を必要とする人たちが地域で安心して正月を迎えられるように、歳末助け合い募金の一部を配分する。

内容：実施場所 竹富町全地区
実施日時 令和元年 12 月下旬
実施方法 区長民生委員による配分対象者調査後、実施要領に基づき配分額、配分対象者を決定する。

事業実績

【平成 29 年度】 一人当たり 15,000 円 計 50 名
【平成 30 年度】 一人当たり 10,000 円 計 55 名
【令和元年度】 一人当たり 10,000 円 計 50 名

●竹富地区 4 名	●小浜地区 2 名
●細崎地区 1 名	●黒島地区 2 名
●大原地区 7 名	●豊原地区 2 名
●大富地区 5 名	●古見地区 5 名
●美原地区 1 名	●祖納地区 2 名
●白浜地区 4 名	●波照間地区 12 名
●鳩間地区 1 名	●新城 2 名



- ・要項（県）の実施方針によると、義援金配分の縮小及び地域づくり事業等への配分拡大が明記されているため、年末年始に地域で開催される行事等へ重点的に行っている。
- ・義援金配分額が他市町村より多かったこと（他市町村は 5 千円程度、もしくは物品）、ふれあいイベント助成申請団体が増加してきたこともあり、平成 30 年度からは 10,000 円。
- ・配分者調査を区長と民生委員にお願いし、区長を通して配布しました。

13. 歳末たすけあい配分事業 ふれあいイベント助成 【財源：歳末助け合い運動募金】



目的：竹富町の高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが地域社会の一員として安心して新年を迎えることができるよう、住民の主体的な参加により地域で実施される福祉活動を支援・推進することを目的とする。

内容：実施方法 実施要領に基づき配分額、配分団体を決定する。

(各団体及び申請額)

① 竹富町食生活改善推進協議会	25,000 円	クリスマス&忘年会
② ほほえみの会	25,000 円	新年会
③ まーまーず	10,000 円	年末おたのしみ会
④ 小浜婦人会	10,000 円	小浜婦人会親ぼく会及び忘年会
⑤ ちゅらさん会	25,000 円	婦人会と交流クリスマス会
⑥ 小浜ミバーステットボールクラブ	25,000 円	お疲れ様交流会
⑦ 細崎公民館	25,000 円	細崎グラウンドゴルフ大会
⑧ 黒島子ども育成会	25,000 円	クリスマス会
⑨ 黒島婦人会	25,000 円	婦人会と老人クラブ交流会
⑩ 豊原子ども会	25,000 円	クリスマス会
⑪ あしながおばさんの会	25,000 円	大原中学校生徒と交流会
⑫ 大富子ども会	25,000 円	地域交流クリスマス会
⑬ 古見公民館	25,000 円	平山杯グラウンドゴルフ・忘年会
⑭ 古見・美原子ども会	25,000 円	古くて♡美しいクリスマス集会
⑮ 美原公民館	25,000 円	新年会
⑯ こみゆサロン	10,000 円	ドレスアップでディナー
⑰ 船浦公民館	25,000 円	クリスマス会
⑱ 上原婦人会	25,000 円	慰労会&祭り反省会
⑲ 西原西部・ニコニコ応援隊	25,000 円	ニコニコ新年会
⑳ FC PAPAYA Jr.	25,000 円	サッカークリスマスゲーム
㉑ 住吉子ども会	25,000 円	兄弟もみんなでクリスマス会
㉒ 浦内子ども会	10,000 円	クリスマスパーティー
㉓ 浦内公民館	25,000 円	新年会
㉔ 干立子ども会	25,000 円	クリスマス会
㉕ 干立公民館	25,000 円	大忘年会
㉖ 祖納婦人会	25,000 円	老人会との交流会
㉗ 祖納老人クラブ	25,000 円	三世代 GB&交流会
㉘ 白浜公民館	25,000 円	地域ふれあい新年会と成人式
㉙ 鳩間公民館	25,000 円	旧正月のたこあげ
㉚ 波照間青年会	25,000 円	波照間クリスマス会

合計 690,000 円

14. 生活困窮者等への支援

【財源：会費、寄付金、歳末たすけあい】



①法外援護事業 ②フードバンクの設置

目的：生活保護法、その他社会福祉関係法による適用の対象とならない一般生活困窮者に対し、予算の範囲内で金品等の支給措置を講じ、緊急かつ一時的に支援を行う。

対象者：①竹富町に住んでいる者 ②被援護世帯であり、突発的に支援が必要な者
③その他、会長が認める被援護者

援護内容：突発的緊急時に伴う医療関係機関受診に係る船賃（実費負担）
突発的緊急時に伴う食材等の現物給付 支給限度額は 5,000 円とする

事業実績：平成 29 年度 0 件
平成 30 年度 3 件
男性 2 人（現金 5,000 円、3 日分の食料）（2 食分）
女性 1 人（現金 5,000 円、4 食分）
令和元年度 0 件

[在庫状況]

- ・アレルゲンフリーカレーライス 20 個
- ・アレルゲンフリーカレーライス 20 個
- ・玉子丼 20 個 ・鶏そぼろ玉子とじ丼 19 個 ・きのこ丼 20 個
- ・豆腐丼 20 個 ・豚丼 20 個 ・すきやき丼 19 個
- ・缶詰パン ディニッシュプレーン味 24 缶
- ・缶詰パン ディニッシュメープル味 24 缶
- ・米粉クッキー プレーン・かぼちゃ&人参・ほうれん草 50 個



15, 生活福祉資金貸付事業

【財源：県社協受託金】

目的：町内低所得者の自立更生を図る



内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 令和2年4月～令和3年3月

対象者 生活福祉資金長期滞納者、町内生活困窮者 他

事業実績

年 度	償還指導	償還完了	貸付相談
平成30年度	8名（延べ51件）	0名	5名（延べ29件）
令和元年度	9名（延べ50件）	4名	3名（延べ5件）
令和2年度			

- ・定期的な償還指導を行うことで、信頼関係づくりに努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により収入減となった世帯を対象に、令和2年3月25日から9月末まで緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を実施。

16, 戸別総合相談事業

【財源：会費、寄付金、町補助金】

目的：制度の狭間にある方の日常生活におけるさまざまな心配ごとや、困りごとの相談に応じ、助言や諸制度の紹介、又関係機関等へつなぐ調整を行い、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日時 令和2年4月～令和3年3月

- 実施方法
- ① 戸別訪問による気になる家庭への支援
 - ② 民生委員と気になる家庭への同伴訪問
 - ③ 関係機関との情報交換
 - ④ 社協内相談窓口での相談受付



事業実績

年 度	訪 問	電 話	来 所
平成30年度	1名（延べ1件）	3名（延べ10件）	0名
令和元年度	0名	6名（延べ12件）	0名
令和2年度			

- ・傾聴をして、本人の気持ちを整理し不安を少し取り除くことに努めました。
- ・制度やサービス等の説明を行いました。

17、日常生活自立支援事業の推進 【財源：県社協受託金・寄附金・会費等】



目的：認知症のお年寄りや、知的障がい・精神障がいのある方が、自身だけでは、生活に必要な手続きや、お金のやりとりをすることが難しく、生活に不安を感じている場合に、本人との「契約」に基づき、支援する。

内容：実施場所 竹富町、石垣市、沖縄本島、宮古島市
 実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日
 実施方法 県社協より八重山地区の業務委託されている石垣市社会福祉協議会と協働し、生活支援員の育成を行い、サービスを提供する。その他、会議・研修会等へ参加。

事業実績

1. 相談援助件数累計（問い合わせ・相談援助件数）

内容	本事業の利用に関するもの				合計
	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	不明・その他	
問い合わせ件数	0	0	0	0	0
初回相談件数	1	1	0	1	3
相談援助件数	1	0	0	10	11
合計	2	1	0	11	14

2. 関係機関連絡会議・研修会等への参加

NO.	日時	場所	講義・内容
1	6月26日	西表島 竹富町離島 振興センター 老人室	西表島東部地区 地域ケア会議 1. 情報共有 2. 日常生活自立支援事業について説明
2	8月29日	小浜島 小浜診療所	小浜島地区 地域ケア会議 1. 情報共有 2. 日常生活自立支援事業について説明
3	11月6日	沖縄総合 福祉センター 西棟3階	宮古・八重山地区社協事業担当者意見交換会 1. 先島地区事業担当者連絡会発足についての経緯

		ミーティング ルーム	<ol style="list-style-type: none"> 2. 本連絡会の司会や議事録作成について 3. 競技・検討・情報交換事項 <ul style="list-style-type: none"> ・新規契約までのながれについて ・兼務事務を行いながらの対応（支援）方法について 4. 支援員配置について 5. 金庫について (購入/保険/金庫設置数/設置場所) 6. その他（意見交換会）
4	11月7日	豊見城市社会 福祉センター	南部・宮古・八重山地区専門員連絡会 <ol style="list-style-type: none"> 1. 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・全国都道府県社協担当部長会議 ・各（元）基幹的社協が行う管内市町村社協へのフォローアップ支援の状況について 2. 情報交換 <ul style="list-style-type: none"> ・質問及び確認事項 ・検討事項及び意見等 ・その他の情報提供・確認事項
5	12月11日	西表島 祖納公民館	西表島西部地区 地域ケア会議 <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報共有 2. 日常生活自立支援事業について説明
6	12月19日	沖縄県総合 福祉センター	令和元年度 第2回日常生活自立支援事業市町村事務局長等連絡会議 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全市町型移行後の本会の取り組み状況並びに次年度の事業実施方針等について

- ・地域住民があつまっている場へ出向き、社協の事業説明を行いながら地域住民との交流を深めていきました。そうした中で支援員の発掘につながっていくのだと感じました。また、たけとみちょう社協だよりへ周知活動も行いました。
- ・竹富町には課題（財源、金庫設置、支援員発掘等）も多くなる中、事業を利用することで少しでも島に安心して過ごせることが出来るのか、専門員としての役割はもちろん、役場・関係機関と連携しながら実績を残すことで行政理解からの予算確保に努めることが大切。

18, 車椅子貸出事業

目的：一時的に車椅子を必要とする人に対し、車椅子を貸出しすることにより日常生活の便宜を図り、その福祉の増進に資する。

対象者：竹富町内に住所を有し、一時的に車椅子を必要とする者。
他、会長が認める者。

事業実績：竹富町社会福祉協議会事務所内車椅子使用車数

平成29年度 12名

平成30年度 15名

令和元年度 4名

車椅子設置場所・台数：

- 竹富町社会福祉協議会事務所 3台
- 波照間島 すむづれの家 3台
- 竹富島 竹富港ターミナル 1台、竹富事業所さみん 1台
- 西表島（東部） 西表事業所さみん 3台
- 鳩間島 鳩間港ターミナル 1台
- 黒島 黒島港ターミナル 1台
- 小浜島 小浜港ターミナル 1台
- 西表島（西部） 西部出張所 1台、上原港ターミナル 1台、船浮公民館 1台

計 17台

・不定期に車椅子の状況確認を行いました。



19, 関係機関への参加協力等

目的：ゲートボール大会や研修会の際に職員派遣要請があった場合、参加協力し、イベント運営を支援する。

実施場所：竹富町内・石垣市内

事業実績：

団体名	内 容	内 容	参加協力 人数	開催日	開催場所
	第6回八重山地区 障害者美術展	事前準備 当日参加 協力	1名	令和元年 11月8～9日	・石垣市健康福祉 センター
竹老連	八重山地区 老人芸能大会	参加協力	2名	令和元年 12月8日	・石垣市市民会館 大ホール

20, その他

- ・竹富町民生委員児童委員協議会への協力（会計補助・事務補助）
- ・八重山地区民生委員児童委員協議会（会計）

2 1, 社協会員募集推進

【財源：寄付金・会費等】

目的：町内地域福祉の積極的な推進における財源確保のため、社協の活動と趣旨を住民に啓発し、会員募集推進を図る。

実施場所 竹富町全域

実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

(強化月間 4月～7月)

実施方法 各地区区長、法人等に依頼文書を発送
会員募集チラシの配布

事業実績

(円)

年 度	戸別会員	賛助会員	特別会員	合計
30年度	542,250	76,000	470,000	1,088,250
31年度	491,500	89,000	420,000	1,000,500

- ・今年度は全地区から会費収入の御協力を頂くことができた。
(強化月間内にご協力のなかった地域や法人には年度内に依頼文書発送を行い、ご協力いただいた)
- ・春の大清掃前に合わせて4月中に発送を行ったことが会費収入増につながったと思う。
- ・今年度、小中学校3校からご協力いただけなかった。
- ・役場、4課ご協力いただけず。

《今後の課題》

- ・会員増に向け、今後の周知方法の見直し検討が課題である。
- ・賛助会員・特別会員の増に向けた取り組み強化が課題である。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染の影響で会費収入が著しく下がると考えられる。

22. ふれあいサロン事業実績報告書

【事業目的】 住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと住み続けられること。地域での楽しみ、生きがい、社会参加を促し「引きこもり・閉じこもり」等、孤立しがちな人たちが気軽に集まれるサロン活動を支援し、楽しく明るい地域づくりに寄与することを目的とします。

【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月31日

【実施内容】 ①レクリエーション、手工芸（合唱・踊り・ゲーム・習字、工作等）
 ②園児・小中学生との交流会（ムービー作り・手遊び・ゲーム等）
 ③クリスマス会・誕生会、
 ④遠足（島内・石垣島）
 ⑤グランドゴルフ・ゲートボール・ペタンク等
 ⑥料理教室・健康体操、脳トレ、カラオケ等

地区	実施グループ名	実施場所	実施日	活動時間	実施回数	登録者数	利用延数	ボランティア登録数	ボランティア延数
東部	あしながおばさんの会	離島総合振興センター	第2月曜日	10:00～13:30	11	17	101	10	89
西部	人生ゆいまーるの会	海人の家	第3火曜日	10:30～13:00	11	7	70	8	50
西部	結の会	祖納公民館	第3木曜日	10:00～13:00	11	15	93	7	70
竹富	ほほえみの会	コミュニティーセンター	月1回	10:00～13:00	12	18	110	10	94
竹富	まーまーず	ゆくい処	毎週木曜日	10:00～14:00	43	11	458	2	147
東部	豊原しらゆり会	開拓の里	第1・3金曜	14:00～16:00	21	4	101	2	42
東部	大富ふれあいサロン	大富公民館	第3水曜日	13:30～15:30	11	14	73	6	47
東部	大原ばいぬサロン	大原公民館	第2水曜日	13:30～15:30	10	10	51	3	27
東部	こみゆサロン	美原公民館	第2水曜日	10:00～12:00	12	16	98	2	23
波照間	ハイビスカスは一もに一	ふれあいセンター	月1回	AMorPM2時間	9	9	72	4	24
	総計				151	121	1227	54	613

【事業成果】

- ・ゆんたく、軽体操、ゲーム、カラオケ、脳トレなど、ボランティアの工夫によって、参加者がサロンを楽しみにしている
- ・お知らせ配布時等の安否確認や体調変化等の観察、異変があればすぐに対応できる体制ができています
- ・皆で集まって話をするだけでも楽しく、笑顔になり、よい刺激になっている
- ・体操や脳トレ、手指の運動等がコミュニケーション作りや体力維持と増進に役立っている。椅子から立つことが出来なかった方が後半は自力で立つことができた。
- ・出不精だった利用者も自分にも出来る事があると喜んで参加するようになった。また、周りに迷惑がかかるからと遠出をしたがらない利用者も皆と一緒に遠足に出かけ、久しぶりの外出を楽しむことが出来た。
- ・利用者とボランティアと一緒に楽しく活動出来、住民主体で活動するサロンが増えた
- ・サロン開催にあたり、ボランティアや利用者の何気ない動作や言葉から地域課題に気づく場合もあるため、地域の方に声掛けをし、声を聞き、解決に向かって支援し、関係機関へ繋げていく
- ・園児や小中学生等、地域の子ども達との交流から、日常生活でも声を掛合う習慣が出来る等、きっかけづくりに繋がった
- ・ボランティア同士の情報交換会を行い、他地域との交流や情報交換が出来、ボランティアの意識向上や活動の刺激に繋がった。

【課題】

- ・高齢化に伴いボランティア、利用者ともに次の世代が居ない状況にある
- ・どのサロンからも、利用者からもっと開催数を増やして欲しいという要望があるが、ボランティアの多忙、高齢化等により月1回開催するのが精いっぱいというサロンが少なくない。
- ・年々各サロンでは、ボランティア、利用者の高齢化に伴い見守りや付添等が増え、ボランティアの負担が増えている。
- ・レクのマンネリ化や利用者の高齢化による体力低下等により活動の範囲に制限が生じ、利用人数が減少傾向にある
- ・昼食づくりのみのボランティアもあり、ボランティア全員がレクに参加できていない、利用者とのコミュニケーションが不足しているところもあり、利用者から不満がでてきている
- ・地域内でのコミュニケーションで小さな誤解が生じる場合があり、円滑でない場合がある
- ・以前は出来ていた活動が、近年「目が見えない」「手が動かない」「長時間歩けない」「得手不得手」等で活動に制限が生じる利用者が増えている。出来る人と出来ない人の差が大きく、内容によっては配慮が必要な場合が増えている

【今後に向けて】

- ・ボランティアが活動しやすいように、また参加が増えるような活動計画の見直しなど可能な限りの解決に向けて支援を行っていく。
- ・限られた活動でも出来ることを見つけ、満足出来るよう支援を行っていく
- ・地域にはまだ、活動に参加されていない方も多くいるので、ボランティアと協力しながら、参加されるように支援を行っていく
- ・他地域のボランティア同士の研修や交流の場をつくり、活動の活性化、ボランティアの育成、新規ボランティアの獲得に向けて支援を行っていく
- ・声掛け、見守り、送迎等ボランティアの負担が多い為、軽減を図れるよう他事業と連携を図りながら、引き続き支援していく
- ・ボランティアの気持ちと利用者の気持ち、地域特性等それぞれ違くとも、皆が満足し、楽しめるように支援を行っていく
- ・月替わりで内容を変える等工夫しているが、内容によっては人数に変動がある。その中で竹富のまーまーずと豊原の白ゆり会は他サロンよりボランティアが少ないにも関わらず月の開催数が多く、利用人数も増え、月による利用者の増減もほとんどない。2つのサロンは歌う事を主に、おしゃべりと体操を行っているのが特徴である。好きな事をしているという共通点が利用者増につながっていると思われるため、他サロンでも取入れていく。
- ・100歳体操の利用料、菓子代等がサロン助成金から支出されている等、サロンと100歳体操が混ざっている所があり何処までが、という線引きがあるのか、福祉支援課との確認が必要と思われる

～ 活動写真 ～



23. 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

○訪問介護でのよいところ…

利用者さんとマンツーマンで接することが出来る
何かと頼りにされる
ゆっくりとかかわることが出来る

●訪問介護で困ったところ…

訪問介護でできないことを求められる…お金を下してきてほしい、診療所へ連れてって、港まで車で連れて行って等

時間が足りなくなることがある…食材がないので買い物から始まる、壊れた調理器具を使用しなければならぬ、1時間の中で掃除、洗濯、調理をしないとイケない

一人なので助けを求められない…卑猥な言動、行動などのセクハラ対応。利用者さんの意思の尊重をどこまでするか。(入浴拒否)

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

令和2年3月統計

介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
要介護	8	1	0	4	0	0	13
要支援	1	3	2	2	6	0	14
事業対象者	0	1	0	2	2	0	5
合 計	9	5	2	8	8	0	32

障がい者支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

竹富町委託事業 障がい者移動支援事業

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	0	0	0	1	0	1

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市	合計
登録ヘルパー数	6	1	3	1	2	0	1	14

【成果】

・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。

・竹富では夜の訪問も出来ている。島の登録ヘルパーが多いのでほぼ寝たきりでも困らない。

・ご利用者様のADLの向上(ヘルパーがくる前に少しかたずける等)

・常勤職員が8月から入ったので、少しは休みが取れるようになった。

【課題】

- 登録ヘルパーが居ても、一日2,3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。
- ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- 非協力的な家族との連携。利用者は困っていることを伝えても一向に改善しない。
- 竹富町はゴミの分別が細かくて、時間内にできないことがある。利用者は高齢者なので分別しきれずにまとめて捨てている。その中から、生ごみ、プラゴミ、燃えるゴミを分別しなおしている。
- ご利用者様の家で使用する、介護用手袋を社協で負担しているが、個人負担にしたほうがよいのか？
- 掃除の支援で、朝一番でとこだわる方が多く、他の方との組み合わせが難しいことがある。

20, 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。

まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは…ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは…「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

訪問介護員(ホームヘルパー)は、何でも手伝ってくれるわけではありません

身体介護でできないこと

【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

生活援助でできないこと

【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い(商品の販売・農作業)
- ・来客の応接(お茶・食事の手配等)
- ・家具の移動や電気器具の修理
- ・床のワックスかけ、窓のガラス拭き
- ・家具の修理

【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り
- など

【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成
- など

◇個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる場合もあるので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。◇

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成31年3月現在

介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
要介護	5	2	0	2	1	0	10
要支援	1	3	2	1	3	0	10
事業対象者	0	1	0	2	4	0	7

障がい者支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	0	0	1	0	0	1

竹富町委託事業 障がい者移動支援事業

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	6	1	3	1	1	3	0

【成果】

- ・ほぼ赤字を出さずに運営できた
- ・年末年始も休みなく365日訪問できた
- ・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。
- ・年に一度訪問する親族から、室内がきれいになったと喜ばれた。
- ・掃除をしなかった方が、ヘルパーが来る日は自分の出来る範囲での掃除をするようになった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2,3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。

・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。代休も取れず、年休も捨てている。

- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・民間(楷成会)に移行する、しない、どうなっているのかわからず、働く側に不安を与えている。
- ・事業者は社協であり、事業所だけで運営しているわけではない。今後の運営、民間移行についても十分に協議してほしいと思います。

♪常勤訪問介護員のある1日♪

- 8:00.. 西表大原行の船に乗る → 大原の到着 → 社協の車で大富の利用者さん宅へ
- 9:00.. 利用者Aさんの生活支援。室内の掃除機かけ、床の水拭き、トイレ清掃、洗濯物回収
- 10:00.. 大原に戻って、利用者Bさんの生活支援。室内の掃除機かけ、台所、水回りの清掃、床の水拭き
- 11:10.. 大原で移動し 利用者Cさんの身体介護。入浴介助。ベッドから車椅子へ移動介助、更衣介助、排せつ介助、入浴介助、薬の塗布
- 12:00.. 西部へ移動
- 13:00.. 祖納 利用者Dさん宅へ、入浴支援。移動見守り、入浴見守り、出来ない所のお手伝い。その後、室内の掃除機かけ、浴室、トイレの掃除。
- 14:10.. 住吉 利用者Eさん宅へ、室内掃除機かけ、浴室、トイレ掃除、床の水拭き
- 16:30.. 大原に戻り、船で石垣へ。 17:20 事務所に戻り事務作業。

この日は1日の中で東部と西部を合わせて回る例です。利用者さんの希望の曜日や時間帯によって、ヘルパーの1人は東部、1人は西部と分かれる時もあります。経由便を使い、午前は西表、午後は竹富と回る時もあります。

担当者の想い…

訪問ヘルパーは利用者さんに寄り添って支援したい

竹富町は離島の離島で、みな等しく介護保険サービスを利用できるようにと介護保険料を払っているのに、十分なサービスを受けられず島に帰れない人が多い。

また、島によっては夜の訪問や毎日の訪問、土日の訪問ができず施設や島外に行く人も居る。

出来る限り、竹富町社協のサービスなのでニーズに応えたいが、島のヘルパーさんが居ないとサービスも充実出来ない。

今後、老人が増えていくにつれ様々なニーズが出てくるときに石垣からの訪問で賄えるのか？、これからの竹富町社協としての介護事業の展開をどのようにしていくのか？5年後、10年後の我が島の介護事情は？と、皆さんと一緒に事業運営を考えてほしいです。

介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。
まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは・・・ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは・・・「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

訪問介護員（ホームヘルパー）は、何でも手伝ってくれるわけではありません

上で、ホームヘルパーの仕事内容について説明しましたが、「**身体介護だから**」とか「**生活援助だから**」と**いって何でも手伝える訳ではありません**。

例えば、以下の行為はヘルパーさんをお願いしても手助けしてもらえません。

身体介護でできないこと

【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

生活援助でできないこと

【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買い物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い（商品の販売・農作業）
- ・来客の応接（お茶・食事の手配等） など

【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り など

【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成 など

どこまでがヘルパーの援助範囲かの線引きは介護保険制度では明確でなく、市区町村ごとにマイナールールがある場合があります。

個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる町もありますので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。

19. 訪問介護事業（訪問介護ステーションさみん）

【目的】

県指定	介護	要介護状態にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町指定	総合事業	「介護予防・日常生活支援総合事業」要支援1,2の方と事業対象者の方に対して心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴、排せつ等の身体介護及び掃除、洗濯等の家事援助その他生活全般にわたる援助を行う。
町受託事業	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者（以下「障がい者等」という。）に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員（ヘルパー/介護福祉士・初任者研修）が利用者宅を訪れ、身体介護（排泄や入浴の援助）や生活介助（調理、洗濯、掃除等）を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している障がい者移動支援事業を実施。

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成30年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	3	1	3	2	0	0	0
要支援	1	4	1	4	7	0	0
事業対象者	0	1	0	1	3	0	0

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	1	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	3	1	4	0	1	3	0

【成果】

・赤字を出さずに運営できた

・年末年始も休みなく365日訪問できた

・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2, 3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。
- ・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。
- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・老人介護だけではなく、障がい者の支援も行っているので戸惑いながらやっている。また、研修の機会が少ない。
- ・次年度から生活支援員の新資格ができる、竹富町と連携し、ヘルパー2級(初任者研修)を受けてない人で生活援助だけ行ってくれるヘルパーの開拓をしたい。
- ・ますます、軽度者が増えていく様子なので、有償ボランティアなどの仕組みを作っていかなければと思う。(ゴミ出しや、ちょっとした掃除等)竹富町総合事業で行う予定

18. 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

【目的】

国 保	介護	要介護状態(介護予防にあっては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町 受 託 事 業	軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員(ヘルパー)が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業

(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

【事業実績】

地区別利用者人数内訳 平成29年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	2	2	3	2	0	1	0
要支援	2	3	2	5	10	0	0

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	1	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	2	1	4	0	1	0	1

軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

【成果】

竹富島在中のヘルパーが世代交代しつつあり、新しい人が頑張ってくれている。

お正月も休みなく訪問ができ、利用者家族から喜ばれた。

竹富で新規に障がいの支援に入ることが出来た。

- ・竹富で夜の訪問が始まった。
- ・船浮にも訪問支援に入れることが出来た。
- ・午前はデイで午後は訪問に行けるように人件費の削減ができた。

【課題】

- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもある
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・竹富島でのヘルパー養成講座受講の方に仕事を振り分けていきたい

21 , 居宅介護等支援事業(訪問介護ステーションさみん)

【目的】

介護	要介護状態(介護予防にあっては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
移動支援	障害者等のつち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

訪問介護事業所には事業の規模に応じて1名以上のサービス提供責任者の配置が義務づけられている。

常勤換算法で2.5名以上の訪問介護員が必要

【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成28年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	4	2	5	4	4	0	0
うち要支援者	1		2	2	4	0	

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	2	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	1	1	4	0	1	0	1

軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

【成果】

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者さんが石垣に行くときの付添いができるようになった。
- ・今年度は大みそか、正月も訪問したので365日の訪問介護ができた
- ・大原で看取りの方の訪問介護ができ、本人も家族も喜んでいた。

【課題】

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。

ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0
--------	---	---	---	---	---	---	---

【成果】

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者が石垣に行くときの付添いができるようになった
- ・前年度は年末年始の訪問ができなかったが、年末は12/30、年始は1/2より訪問が出来た

【課題】

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。

24. 離島等相当通所介護事業・予防介護事業

【目的】

要介護・要支援者にある利用者に対し、その利用者の有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う指定通所介護・指定予防通所介護の事業を提供し、利用者の居宅における自立力の維持、向上へ繋げ、要支援者の介護状態への移行を予防すること、併せてご家族の身体的、精神的負担の軽減を図る。

【事業内容】

実施場所	竹富島	月、火、水、金
	黒島	月、水、金
	西表東部	火、木

営業時間 10:00～16:00

【成果と課題】

西表東部においては、事業対象者及び支援の利用者様が多いが、要介護状態にある利用者増えつつあります。今後は、週2回行っている営業日を週3回に増やしていく必要がある。

各島でサービスの拡大が求められていますが、スタッフ不足により、人材育成が思うように行われていないため、黒島は利用者が増えず、苦慮している状況です。

上記は今後の重要課題と理解しており、また、人材確保は危急な課題であり、介護職員の募集、育成は根気強く続けて行かなければならない。

地域連携サービスの適正な運営を確保するため、事業所の所轄庁、地域の医療機関及び福祉施設、他の保険介護事業所等と連携を密に図らなければならない。

平成 30 年度実績

地区名	種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
竹富 週 5 回	介護	87	92	110	114	147	134	140	127	125	109	97	94	1376
	予防	19	21	16	14	23	19	19	11	11	15	17	20	205
	計	106	113	126	128	170	153	159	138	136	124	114	114	1581
黒島 週 3 回	介護	54	44	43	36	38	37	36	42	27	15	17	25	414
	予防	12	16	12	11	12	8	12	14	14	14	14	17	156
	計	66	60	55	47	50	45	48	56	41	29	31	42	570
西 表 東部 週 3 回	介護	31	38	36	36	33	30	40	28	34	33	31	26	396
	予防	43	54	51	46	40	19	26	39	22	23	21	20	404
	計	74	92	87	82	73	49	66	67	56	56	52	46	800
合計		246	265	268	257	293	247	273	261	233	209	197	202	2951

【事業実績】

平成 31 年度（令和元年）実績

地区名	種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
竹富 週 4 回	介護	85	95	110	101	89	83	94	89	92	92	97	26	1053
	予防	24	28	25	35	24	23	29	29	26	25	25	25	318
	計	109	123	135	136	113	106	123	118	118	117	122	51	1371
黒島 週 3 回	介護	23	29	18	6	5	1	0	8	6	7	7	10	120
	予防	13	14	19	22	16	19	25	25	19	22	8	17	219
	計	36	43	37	28	21	20	25	33	25	29	15	27	339
西 表 東部 週 2 回	介護	25	24	21	28	32	32	32	30	32	25	9	10	300
	予防	30	30	34	36	33	32	37	34	37	29	33	48	413
	計	55	54	55	64	64	64	69	64	69	54	42	58	713
合計		204	220	227	228	199	190	217	215	212	200	180	236	2423

21, 離島等相当居宅介護支援事業(離島等相当居宅介護支援事業所さみん)

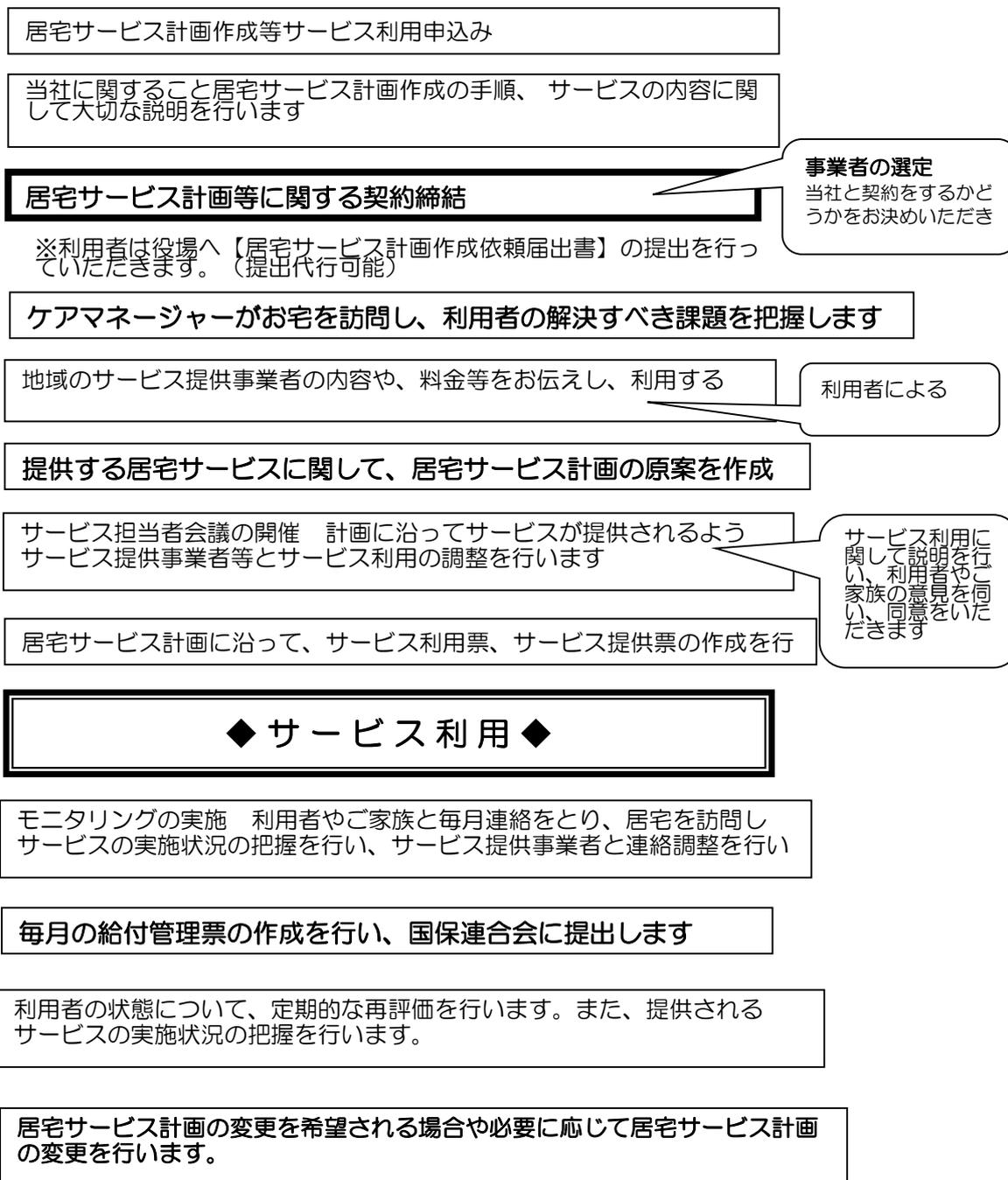
目的

事業所の介護支援専門員が要介護状態又は要支援状態にある高齢者に対し、適正且つ円滑な居宅介護支援を提供する

実施内容

事業所の介護支援専門員は、利用者が要介護、要支援状態であっても、可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を送れるように配慮し、利用者の意向に基づき適切な保健医療、福祉サービスが多様な事業者から総合かつ効率的に提供されるよう、公正中立な居宅支援を行う

サービス提供の標準的な流れ



【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成31年度 4月現在

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	厚生園
利用者人数	5	0	3	10	5	2	0
要支援者	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0

合計 25

月別利用者人数内訳

(国保連請求実績)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護	22	23	24	24	25	25
要支援者・事業対象者	0	0	0	0	0	0

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護	25	21	11	4	3	0
要支援者・事業対象者	0	0	0	0	0	0

サービス担当者会議の開催回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
回数	6	4	0	6	2	2

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	1	1	3	0	0	0